

キャリアに拓く 3年生の活動

訪問先 農学部の先生

鳥取大学附属小学校では、大学の学部や研究機関、地域の施設等と連携して学びの場をつくり、子供のキャリア形成を目指していく活動、「キャリアに拓く」を実施しています。3年生の活動の様子を紹介します。

湖山池の歴史や人々と湖山池の関わりについて話を聞くことを通して、湖山池の自然や環境について理解を深め、自然と人間との関わり方について広く考えていくことをねらいにして学習に取り組みました。

6月に、湖山池情報プラザの方と青島のフィールドワークをしたり、湖山池の生物や島、伝説についての話を聞いたりしました。そのことをきっかけに、子供たちは湖山池についてさらに関心をもちました。そこで、漁、魚、水、青島、池、植物の6グループに分かれて自分たちの疑問を出し合いながら、調べ学習に取り組みできました。調べていく中で、子供たちは湖山池がどのようにできたのか、湖山池の水は溢れないのか、池に住む在来種や外来種の生き物はなにがいるかなどについて様々な疑問をもちました。

そして、湖山池についての調べ学習をさらに深めようと、農学部の先生に湖山池の歴史や環境について詳しく話をさせていただく機会を設定しました。まず、湖山池がどのようにしてできたのかについて、数百年前に遡って千代川、湖山川、湖山池の変化の様子を資料で見せていただきました。そこで、千代川や湖山川が何度も工事されており、流路が変わったことを知りました。湖山川は、以前は千代川に注いでいたが、工事によって、今から約33年前に鳥取港に注ぐようになりました。そのため、湖山池が湖山川を通して日本海と直接つながることで、塩分濃度が上昇して湖山池の環境が急速に変わり、かつて生息していた生物が絶滅したことを改めて知りました。その後、再度人間の都合によって汽水から淡水になったことでアオコが大量発生したこともうかがいました。しかし、淡水化に伴うアオコやヒシの繁殖によって悪臭が発生したり、大変な除去作業が必要だったという点についても、子供なりに考えを巡らせながら興味深く聞きました。

また、淡水に海水を入れるとどうなるかについて視覚的に捉えるために、真水に食紅で色を付けた塩水を入れる実験をしていただきました。真水に塩水をゆっくりと注いでいくと、比重の重い塩水が真水の下に潜り込んでいくことが色水の層でよく分かり、子供たちから驚きの声が上がりました。この実験で、淡水だった湖山池に海水を入れて汽水化した際の水の動きがイメージできました。

しかし、アオコやヒシの繁殖を防ぐための汽水化によっても、同時に一部の生物を絶滅させてしまうことになったと聞き、汽水化と淡水化を繰り返す中で、池に住む生物が環境の変化によって翻弄されてきたことを知りました。そして、普段何気なく見ていた湖山池の環境には、このような歴史があり、人々の努力や工夫によって今の環境が守られていると分かりました。

最後に、人間が環境を変えるときは、自然のペースに合わせてゆっくりとゆるやかに変えていくことが大切だと教えていただき、子供たちは深く共感していました。人間の都合で環境を変えていくと、大変なことが起きてしまうと子供たちもしっかりと感じ取ることができました。また、地質学を研究されている先生が、「地質について知ることができるので、どこへ行っても楽しい。」と言われたのを聞き、子供たちは先生の研究に対する思いや生き方に触れることができました。身近な湖山池に愛着をもち、調べ学習を深く考察しただけでなく、生身の研究者に触れることで、自分の生き方に夢をもち、探求心を高め、視野を広くもつことのできた学習となりました。

